

みえ半導体産業振興方針（仮称）策定に係る第2回有識者会議 概要

1 日 時 : 令和8年8月6日（木）13:00～15:10

2 出席者 :

委員 : 三宅座長、加藤委員、金子委員、藤本委員、増川委員、大屋委員代理

臨時委員 : (株) 日本政策投資銀行

オブザーバー : (一財) 中部経済連合会、中部電力パワーグリッド（株）

県 : 知事、副知事、雇用経済部長

3 主な意見

【人材育成・確保】

- ・台湾の例をみても、大学等と企業との連携が重要。大学等と企業が連携した研究開発の実施や契約学科制度の活用を検討してはどうか。
- ・多くの高校生が県外大学へ進学する中で高度人材を確保するためには、リターン就職率の向上が必要。そのためには、進学層に向けて高校在学中から情報提供をすることが重要。

【産業集積・立地環境】

- ・三重県は、コンビナートを背景に化学メーカーが多数立地し、原材料等の供給体制がある。産業の厚み・裾野の広さが強み。
- ・県内で再投資が進めば、県産業全体の裾野が更に拡大する。そうした再投資に対応できることが重要。

【総論】

- ・短期的・中長期取組といった時間軸を明確にし、注力する取組に濃淡を付けたうえで、具体的な取組を示すことが必要。
- ・三重県は、①既存の産業集積、②自動車産業と近接、③関西・中京圏へのアクセスにおいて、優位性を有する。
- ・短期的には、現在の取組を充実・加速（人材ネットワークの拡大、企業誘致の推進、関連産業との連携強化）への取組が考えられる。
- ・中長期的には、自動車分野（パワー半導体）との接続による価値創造や、既存産業基盤を活かした後工程・先端パッケージ分野との接続・展開可能性が考えられる。